

あさひの日だまり

昨年末に、保護者の皆様、児童にお願いして行いました「学校評価アンケート」の結果をまとめました。項目がいくつもありご記入いただくのにお時間をいただいたことと思います。ご協力本当にありがとうございました。

いただいた結果は、今後の学校運営に反映させていきます。まだ足りないと思われることなど学校のことで気になることがありましたら、遠慮なさらずにご意見下さい。子どもたちのためになることは改善したり工夫を重ねたりしてまいりたいと思います。

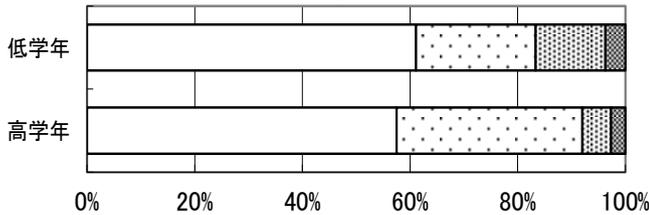
児童からの回答と保護者の皆様からの回答のうちいくつかをピックアップして掲載します。また、結果を見て私が感じていることも記させていただきます。目を通していただけたら幸いです。

まず児童のアンケートの中からいくつか紹介します。

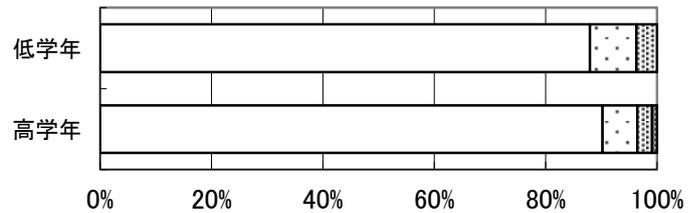
子どもたちへのアンケート結果から (令和4年11月実施)

□ 思う ▨ だいたいそう思う ▩ まりそう思わない ■ ない

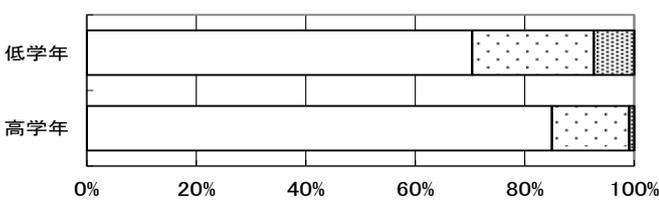
学校へ行くのが楽しいです



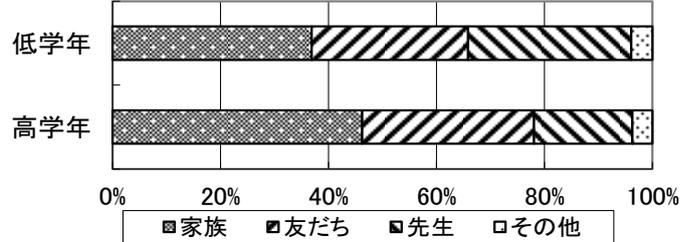
仲の良い友達があります



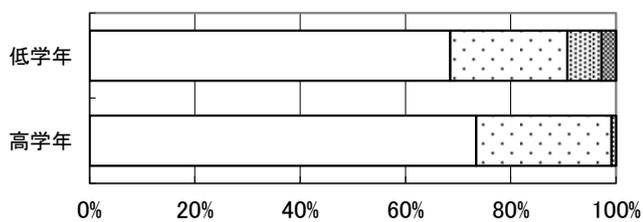
困ったときに相談する人がいます



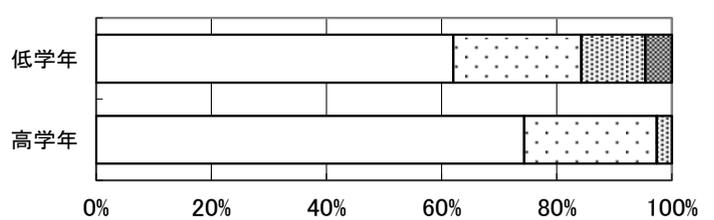
誰に相談しますか



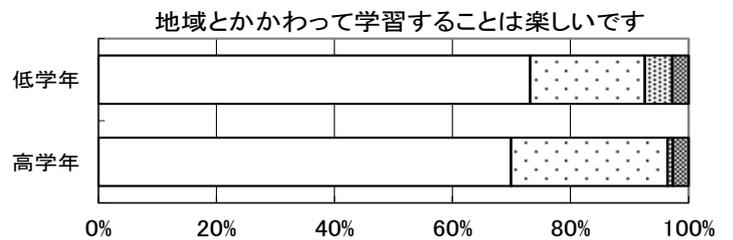
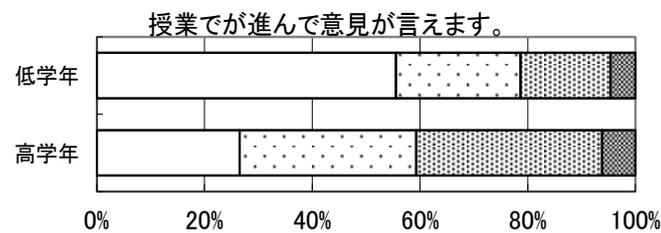
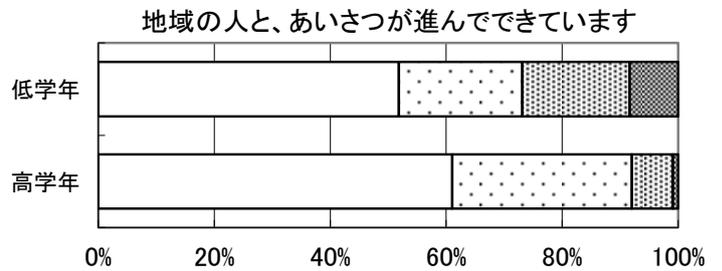
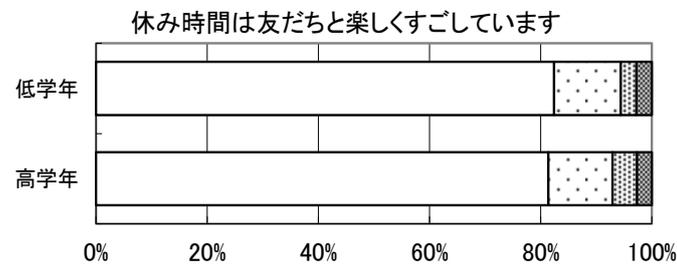
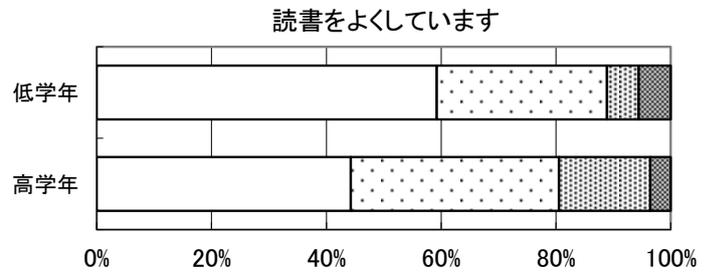
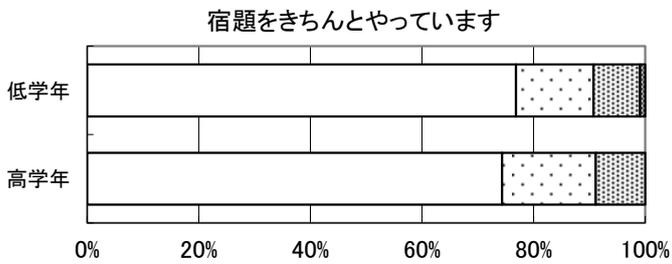
授業はわかりやすいです



先生はあなたががんばったことをほめてくれます



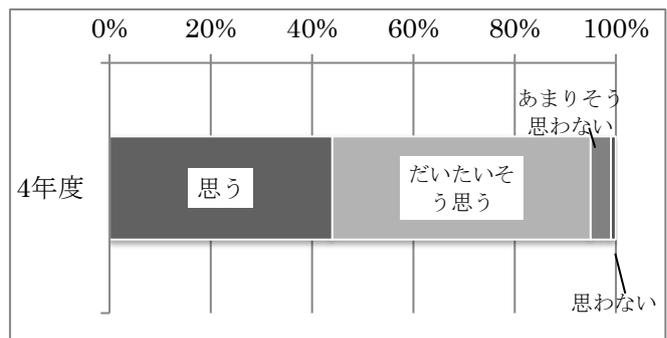
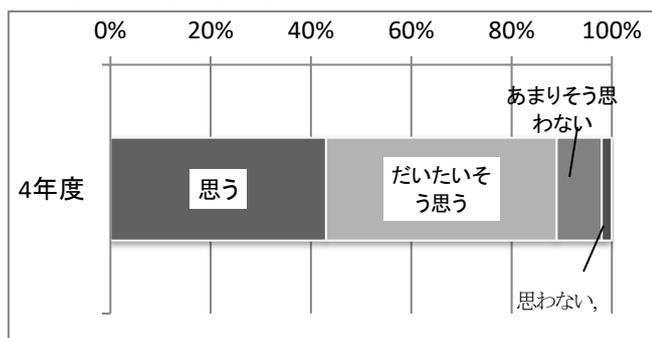
「学校へ行くのが楽しいです」「授業はわかりやすいです」といった問いに対する回答で、私が気になるのは、「思わない」と回答した子どもの存在です。私は、学校は「楽しい」ところでなくてはいけないと思っています。クラスが楽しい。勉強が楽しい。そういうところではなくては、毎日学校へ行くことが嫌になってしまいます。アンケート結果からみると、子どもたちの中には「学校行くの嫌だな〜」と思いながら頑張って登校してきている子どもがいることがわかります。「私たち教師の目の前にはそういう児童がいるんだ」ということを肝に銘じて私たちは教壇に立たなくてはいけないと思います。



私は、子どもたちの「自律した姿」を先生方と子どもたちが協力して、共に目指す学校になれたらいいなと思っています。そういう視点から考えたときに、「授業で進んで意見が言えます」という児童のうち、特に高学年の児童の「そう思う」という比率の低さが気になります。「自律した姿」を育むためには、学校でも家庭でも、子どもの判断や行動力を大切にしていく必要があると思っていますが、中でも、子どもが最も長時間を費やす、授業中の過ごし方が大切です。「授業が楽しくて、自分の興味を持てることに没頭できる時間があること」そのことが大切です。子どもは、学習に没頭していると「なるほどな〜」とか「ふしぎだな〜」とか「もう一回試してみたい！」と自然につぶやきます。そういうことを私は、進んで意見が言える姿なのだろうと思うのです。私たち教師の責務として、そういう授業を目指して頑張らなくてはと思います。

次に保護者の皆様のアンケート結果の中からいくつか掲載します。

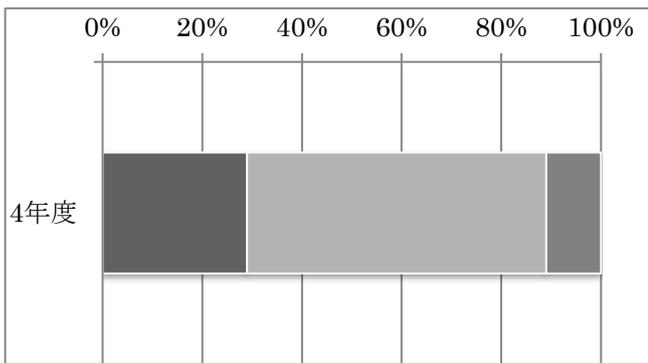
- 1 お子さんが学校に行くことを楽しみにしている学校
 2 お子さんは友達と仲よく過ごしていると思いますか
 になっていると思いますか



異学年との交流があり、学年を越えて仲良くできていると書いてくださった保護者も多くいました。いろいろな活動を通して子どもたちはその関係性を深めたり、高学年の児童は責任感が育まれたりしていくと思います。これからも友だちと仲よくできて、安心感を持って「学校へ行くのが楽しい」と感じられるような東小を目指していきたいです。また、教職員は「いじめは絶対に認めないし許さない」という姿勢で子どもたちの前に立っておりますが、何か心配なことがありましたら、担任の先生でも、養護の先生でも、校長教頭でも構いません、気軽にご相談ください。

多くの保護者の皆様から、教育活動全般において、先生が親身でいろいろな対応をしてくれているというご意見をいただいた半面、不十分さを指摘されるご意見もありました。そんな声を真摯に受けとめて、一人ひとりの児童に寄り添った指導ができるように、全教職員日々努力して参りたいと思います。

3 お子さんが意欲的に学習に取り組める授業が行われていると思いますか



授業の質を向上するために、町教委学校支援主事を招いて職員研修を行ったり、各種研修会の案内を回覧したりして、「授業力向上」や「児童理解」について取り組んでまいりました。なんといっても私たちにとって一番大切なことは授業力の向上です。そのことを忘れることなく、子どもたちにとって楽しい授業が行えるように努力を重ねてまいります。

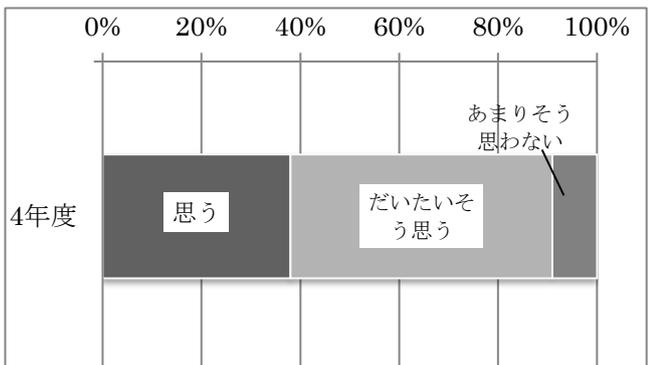
教科担任制に関して多くのご意見をいただきました。

来年度も基本的には教科担任制を導入しますが、保護者の皆様にご意見を活かして、形態を少し変えていきたいと思ひます。

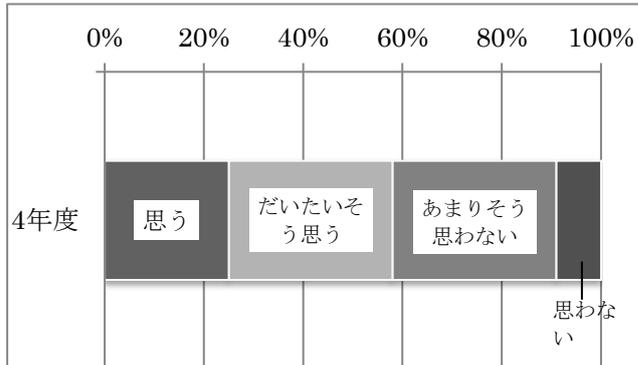
来年度は、コロナ禍の状況を判断しながら、学校内外の人に触れ合うような体験活動も充実させていきたいと思ひます。今年度はいろいろな学習の場面で子どもたちに不自由な思いをさせてしまいました。また、保護者の皆様にもご迷惑をおかけしたことは申し訳ありませんでした。

積極的にタブレット型のパソコンを利用した授業を多く取り入れてまいりました。町の ICT 支援員の方にも授業に入っていただき、私たち教職員も力量を高められるよう努めてまいりました。しばしば ICT 機器の利用方法に関して問題も発生しましたが、それは学習の機会であるにとらえ、情報モラル学習を実施し注意点や約束などを学習してまいりました。タブレットを使用するのが目的ではありません。タブレットが児童の主体的な学習に繋がる手段になるよう実践を重ねていきたいと思ひます。

4 学校は、声と心がつながりあうあいさつをめざして、あいさつなどがかわされていると思いますか



5 家庭では、子どもと一緒に読書をしたり、読み聞かせをしたりしていますか



あいさつのことに関してお話をしますと、私自身、学校の先生とすれ違う時や、登下校の際、なかなか照れくさくてあいさつのタイミングを逃してしまうことが多かったです。「あ～ 今回もちゃんとあいさつができなかったな～」と反省することが度々でした。大人になって「あいさつは、されてから返すのではなく、自分から最初に声

を発するようにできたら」というお話を聞きました。そこで、意識的にそうするようにしてみました。しかし、ずっと長い間身についてきていないことを突然するわけですから、これはなかなか勇気のいることでした。勇気を振り絞り道行く人にも意識してあいさつをするようにしました。きっといきなりあいさつをされて、相手の方はびっくりしておられたと思います。それでも、小さな声であいさつを返していただきます。そのあとは何となくすがすがしい気持ちになりました。

そして、今は、だんだんとですが、自然にあいさつができるようになってきました。こういうことから考えても、子どもたちが挨拶を自らすることは決して簡単なことではないと思うのです。「自分から」あいさつができることは、きっと「自律した姿」へ結びついているように思います。学校でも、「自分からあいさつ頑張ろう」と声かけをしています。各ご家庭におかれましても、ご近所の方にお子様と一緒にあいさつをしていただき、手本を示していただくと幸いです。

～学習発表会がはじまりました～

子どもたち頑張っています

朝、学級を訪ねてみると、タブレットに向かって何やら一生懸命言葉を打ち込んでいる児童や、模造紙に書き込んでいる児童や、原稿を頑張って読む練習をしている児童がいます。「何の準備しているの？」とたずねると、みんな「学習発表会！」と答えてくれます。

嬉しそうに準備をしています。

「ぼくいやだな～」

「どうして？」

「緊張しちゃうもん！」

「わかるわかる 大丈夫、今日で終わるからさ。ちゃんとうまくできるよ！」

と声をかけてきました。

今日は1年生と、2年生が発表会を今しています。写真を撮ってきました。

